安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第３回）　議事録

会議名	安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第３回）
日時	令和６年６月25日（10：00～11：30）
出席者 （敬称略）	【委員】 • 安平町　町長　及川　秀一郎 • 安平町　副町長　田中　一省 • 安平町商工会　会長　小林　正道 • 安平町誘致企業会　会長　島田　裕之 • 安平地区連合自治会　会長　佐々木　弘 • 追分地区町内会連合会　会長　真保　立至 • 石川　英俊 • 且見　曉 • 宮崎　晃行 【アドバイザー】 • 北海道大学大学院地球環境科学研究院　教授　山中　康裕 • 北海道地方環境事務所環境対策課　室長補佐　桂　愛子・水鳥　智幸（代理・WEB参加） • 北海道銀行　安平エリア統括早来支店長　山内　淳 • 北海道ガス株式会社環境・地域共創推進部　係長　場谷大樹（代理） • 北海道電力株式会社　道央南統括支社長　吉田　耕也 【事務局】 • 安平町　税務住民課　参事　佐々木　智紀 • 安平町　税務住民課　課長補佐　畠山　津与志 • エイコーエナジオ株式会社　事業アドバイザー　髙島　誠太郎 • エイコーエナジオ株式会社　事業アドバイザー　中尾　敏

	夫 • 株式会社 DG ネットワーク　事業アドバイザー　北野　史人 • 株式会社 DG キャピタルグループ　事業アドバイザー　藤井　正輝
配布資料	• 安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第 3 回） • ＜別紙 1＞安平町再生可能エネルギー導入目標策定事業報告 • ＜別紙 2＞安平町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定事業説明（第 1 回）

1. 開会

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会設置要綱第 6 条第 1 項の規定に基づき、及川町長が議長となった。

及川町長から挨拶が行われ、また設置要綱に第 6 条第 2 項の規定に基づいて本会が適正に開催されたことが説明された。

2. 委嘱状交付

及川町長から吉田アドバイザーに対して委嘱状の交付が行われた。

3. ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第 3 回）」に基づいて説明が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

【意見交換・質疑応答】

- 環境教育については、教育長に当協議会の委員になっていただくことで推進できると考えられるので、教育委員会とも調整していきたい。（議長）
- 体制整備については、来年 4 月 1 日に向けて、ゼロカーボン推進室のよ

うな室を設置し、兼務にはなると思うが体制強化を図っていきたいと、6 月議会で答弁を行った。（議長）

- 重点対策加速化事業について、どのくらいの採択率だったのか？（委員）
  - 今回は 30 自治体程度が採択となっているが、全体の申請数はわからない。噂程度には 4 分の 1 から 5 分の 1 程度の採択率であったと聞いている。（事務局）
- 重点対策加速化事業について、農業委員会との合意形成が未定というはどのような意味か？（委員）
  - ソーラーシェアリングを行うにあたり、農業委員会の許可や、営農に関わる検討が必要であるが、申請書の中ではこれらの具体性が欠けていた部分があったと理解している。北海道地方環境事務所を本日訪問し、詳細については確認をする予定である。（事務局）
  - 町と農業委員会は別組織であるが、今後は説明の機会を設けていきたい。（議長）
- 推進体制の強化について、地域おこし協力隊として安平町に来ていただく方には、ゼロカーボンに関する知識や経験が求められると思われるが、どのような基準で募集を行うのか？（委員）
  - 募集は既に行っていて、面接も終わり、採用者が決まっている。（事務局）
  - 予算の関係で議会でも質問があった。過去に東電グループに勤めていて民間経験もあり、情報発信も含めてできる方と聞いている。（議長）

4. 安平町再生可能エネルギー導入目標策定事業報告について

事務局より、「＜別紙 1＞安平町再生可能エネルギー導入目標策定事業報告」に基づいて説明が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

【意見交換・質疑応答】

- P4 の特定事業所について、畜産公社は前任の担当部署でよく行ってい

たが、工場の老朽化が進み、キャパも一杯になっていると聞いていたので、これから工場の建て替え等がされていくのだと思う。畜産公社も春雪さぶーるも大きな会社なので、ゼロカーボンのことは常に意識されて事業をしていると思うが、こういった会社がゼロカーボンに取り組んでいくことで、町内全体のゼロカーボンに向けた進み方も良くなるだろうと思う。（委員）

- 畜産公社の社外取締役をやっているが、施設の老朽化や感染症対策への対応として、増築等を行っていくと聞いている。安平町のみならず、北海道全体のゼロカーボンの実現を考えて、安平町の推進する太陽光発電の設置も含めて畜産公社にはアプローチしていきたい。（議長）
  - 景観の問題については、風力発電についてはかなりニュースで見て懸念していたが、太陽光であればすでに大規模なメガソーラーが立っている地域であることも踏まえ、町長のおっしゃるようにアプローチしていっていただければ、先方も対応してくれるのではないかと思う。（委員）

- P7 については、再生可能エネルギーのポテンシャルがすごく多く見えるが、仮にこれが実現した場合、我々が太陽光パネルや風車の下で暮らすような世界になる。それは現実にはあり得ないので、そういった目でポテンシャルを捉える必要がある。実際には 178MW 必要ということだが、これはソフトバンクが作った町内 2 箇所のメガソーラーと同じ規模である。なので、これらのメガソーラーを買収するか、同じ規模のものを自立分散の形でもう 1 セット作るという、それくらいの規模であり、そんなに難しいことではない、というイメージを持っていれば良い。（アドバイザー）
- 熱まで考えて計画を立てているのは良いアイディアである。（アドバイザー）
- 特定事業所については、他の自治体では遠慮がちな計画を立ててしまう

ことがある。これは、せっかく誘致した工場が他所に行ってしまうことを恐れてのことだが、安平町はお互いに知恵を出し、協力しようという姿勢を特定事業所に対して示し、町の振興と一緒に考えて推進していくと良いと思う。（アドバイザー）

- 現在、安平町内で消費されている電力を考えると、町内の自動車が EV になれば、その蓄電能力だけで需給調整は足りるが、全てを電化して太陽光発電で賄おうとすると、1 日の中での消費電力と発電電力の格差が大きいので、蓄電池やマイクログリッドという提案が資料の最後の方に出てきているのだと理解している。（アドバイザー）
- 簡単には電化できないエネルギーの使用方法もたくさんある。安平町の場合は隣接する苫小牧市で水素を製造する計画があるので、その消費地として考えることで、新たな産業の誘致にもつながるのではないかと思う。（アドバイザー）
- P8 について、「カーボンクレジット」とはどのようなものか？（委員）
  - 温室効果ガスを減らしたと見做す権利を、お金を払って取引するものである。国内にそういうクレジット制度を国が主導して作っている。（事務局）
  - クレジットを売る側としての活用に向けた勉強会を、町としても進めているところである。（議長）
  - 京都議定書をきっかけにクレジットの考え方が始まった。例えば IOC ではクレジットを購入してきて、CO2 を出さないオリンピックの実施を宣言している。ただし、クレジットにも質が様々であり、確実に CO2 が減っているのか怪しいクレジットもあるので、現状はグリーンウォッシュと環境団体から批判されることもある。クレジットを購入してお金で解決する町と見られることもあるので、クレジットの購入に頼らずに、自らの手で CO2 を削減する方が賢明である。（アドバイザー）

5. 地方公共団体実行計画（区域施策編）の策定について

事務局より、「＜別紙 2＞安平町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定事業説明（第 1 回）」に基づいて説明が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

【意見交換・質疑応答】

- 最後のページの協議会の日程については、9 月 25 日、12 月 24 日、3 月 25 日で今の所日程を組んでいるのでお知らせする。（議長）
- P8 の人口推計については、ちょうど今人口が横ばいから若干プラスに転じているところである。来年度に国勢調査も実施されるので、その結果も確認していきたい。（議長）
- P9 の地域の産業の動向については、2018 年のデータしかないが、北海道胆振東部地震からの復興や道の駅のオープンなどによって、ここ 5～6 年に間に町の状況が大きく変化していることも考慮が必要である。（議長）
  - 産業構造まで考えてやることはとても良い。これからスコープ 3 の時代となり、CO2 をどれくらい排出して生産されたかを全ての製品で証明していかないといけない時代になる。（アドバイザー）
- アンケートについては、2050 年を見据えてその時に対象となる人を逆算しながら、また今後複数回行っていくことを踏まえて継続可能な労力で実施していくことを考え、パソコンやスマホを使った回収を想定している。例えばお年寄りの方で、パソコンやスマホの利用に不自由があるような方には、自治会・町内会を通じて協議会の中でご意見をお伺いしたい。（議長）
  - アンケートの回答を紙ではなく WEB で回収することは重要なので、費用対効果も考えて実施されれば良いと思う。（アドバイザー）
- アンケートの内容については、マイクログリッドに関する内容も含めるのが良いのではないか。スマートメーターで電力需要を細かく収集することができる時代が来ているので、北海道電力や北海道ガスの協力を得

てデータを収集し、地区ごとの利用状況を比較するなどできれば良い。アンケートの作成については、私も協力したい。（アドバイザー）

- 確かにスマートメーターで 30 分値を集めることができると言う仕様になっているので、DX の観点をまちづくりに取り入れていくことは有用と思う。（アドバイザー）

- 他のゼロカーボンに向けて取り組んでいる自治体の中には、「再エネポテンシャルがたくさんある」という所からスタートしても、自治体内の住民や企業と対話を進める中で、ゼロカーボン実現のハードルがどんどん上がってしまい、取り組みを諦めた自治体もあった。逆に対話を進める中で「じゃあ俺たちの町でやろうぜ」と言うようになっていった自治体もあったので、そういった町内での対話を進めることがとても大事と思う。（アドバイザー）
- 178MW の太陽光発電の目標というのは、家庭部門のみを対象としたものか？それとも町内全部門を対象としたものか？（アドバイザー）
  - 町内全部門を対象としたものである。（事務局）
    - 太陽光発電を使った場合、環境価値の分だけ従来の電力よりも 1-2 円/kWh 高くなることは否定仕切れないと思うので、そういったところもご理解いただく必要があるだろう。（アドバイザー）
    - 脱炭素先行地域では、PPA 事業に補助が出るが、補助を使って安い PPA 料金を実現した分、余剰電力は格安で地域に供給するという建て付けになっており、良い事例だと思う。（アドバイザー）
- 安平町は都市ガスの供給エリアではないが、電気の小売りはやっているので、電気の使用状況を把握でき、省エネの提案などもできる。デジタルの部分でフル活用していくのは良いことであるので協力できる部分は協力したい。また自治体と対話をしていると、電気の地産地消をやりたい、という希望が出てくることが多く、我々としてもやりたいと思っ

ている。町内で発電された電力を、まずは公共施設で使う等、これから計画されていくと思うので、そう言ったところで協力させていただければ、と思う。（アドバイザー）

6. その他

その他、全体を通じて以下の意見交換・質疑応答が行われた。

- 重点対策加速化事業については、我々の支援も力及ばず、今回は残念であった。今後どのような事業を行うに当たっても、ここに集まっている協議会の皆さんの協力は不可欠であるので、引き続き一緒に脱炭素の事業の検討を進めていきたい。（アドバイザー）
- 補助申請については、就職活動のエントリーシートのようなもので、補助金を出す側のやりたいことと申請を出す側のやりたいことを擦り合わせて作文をする。補助金を獲得する意味では北海道の先行したいくつかの自治体と比べると安平町は出遅れているのは確かだが、これに一喜一憂すべきではなく、粛々と進めていけばトップになることも可能であろう。現実の就職活動のように、やり方は様々あるので、安平町にとって最も良いやり方を進めていけば良い。（アドバイザー）
- 安平町のまちづくりを考えていく上では、協議会のジェンダーバランスについても考えた方が良い。（アドバイザー）
  - 本日は欠席であるが、新たに早来地区自治会連合会会長として委員になった山下委員は女性であるし、新たに北海道電力ネットワーク株式会社道央南統括支社長としてアドバイザーになった黒須アドバイザーも女性である。また、こういった委員構成だけではなく、場面場面で安平町母子寡婦会、安平町婦人団体連絡協議会に説明と意見聴取をしていくようなフォローを含めて、考えていきたい。（議長）

7. 次回協議会について

事務局より、9 月 25 日(水)から次回の協議会を開催予定であることについて説明があった。

8. 閉会